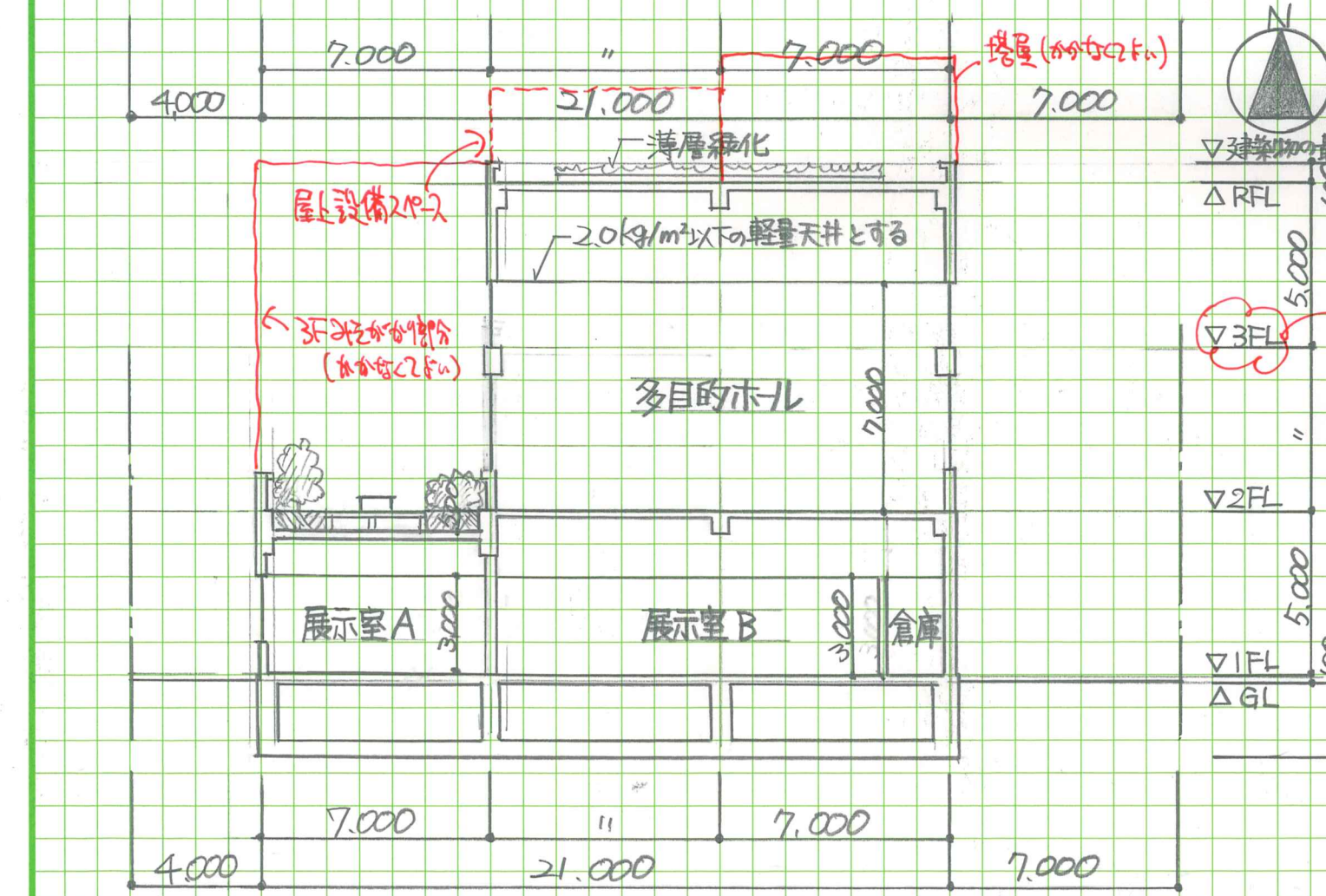
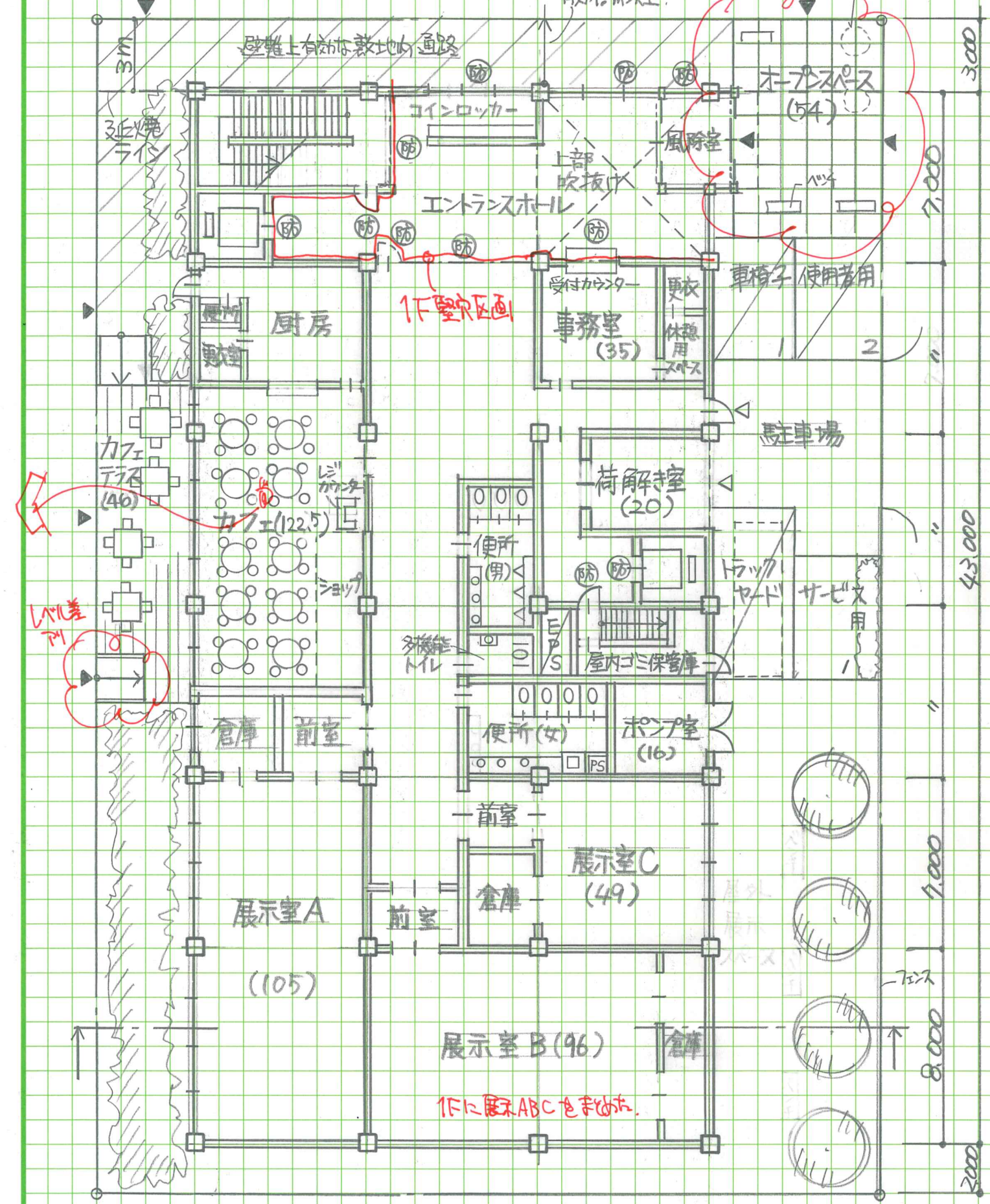
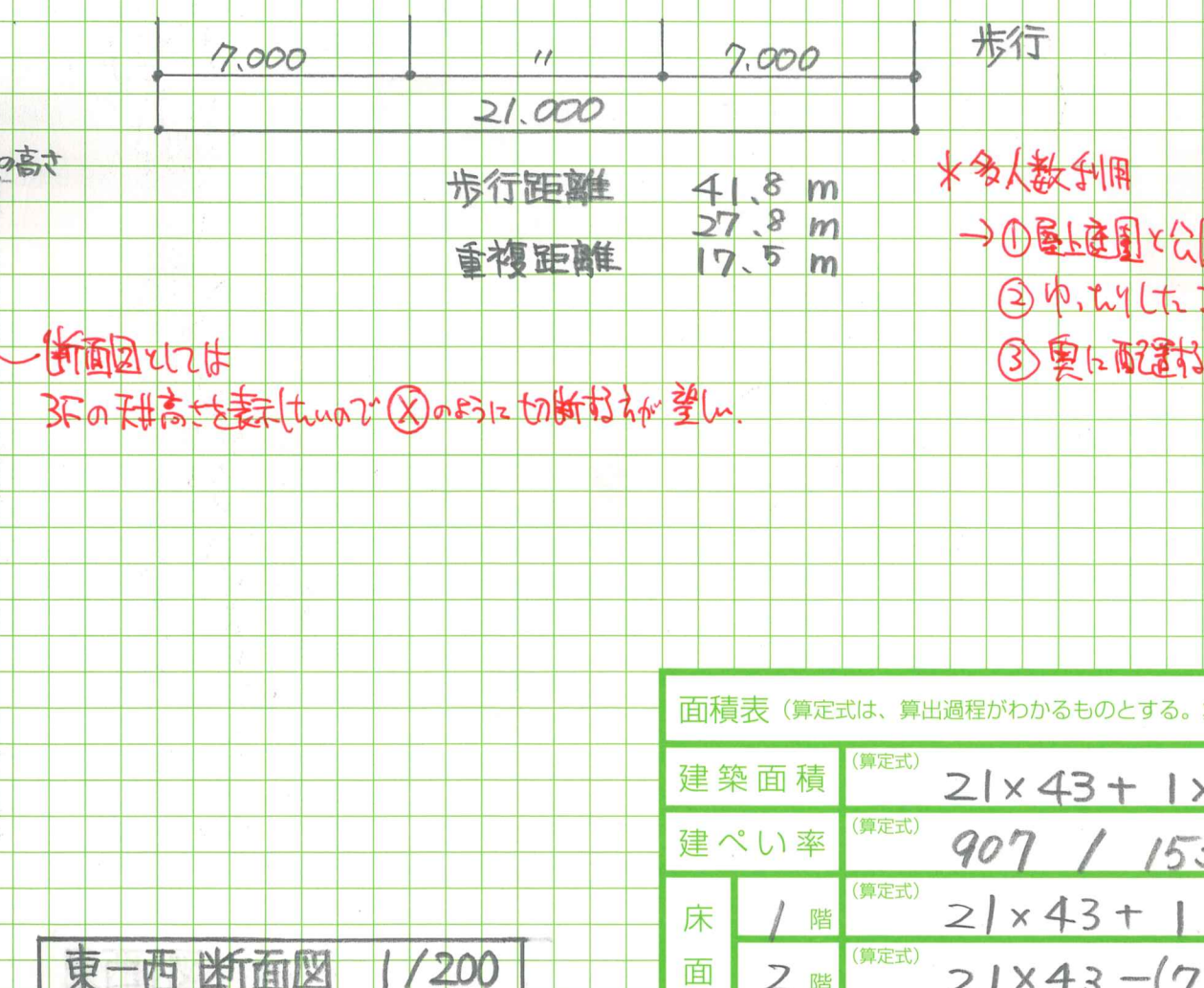
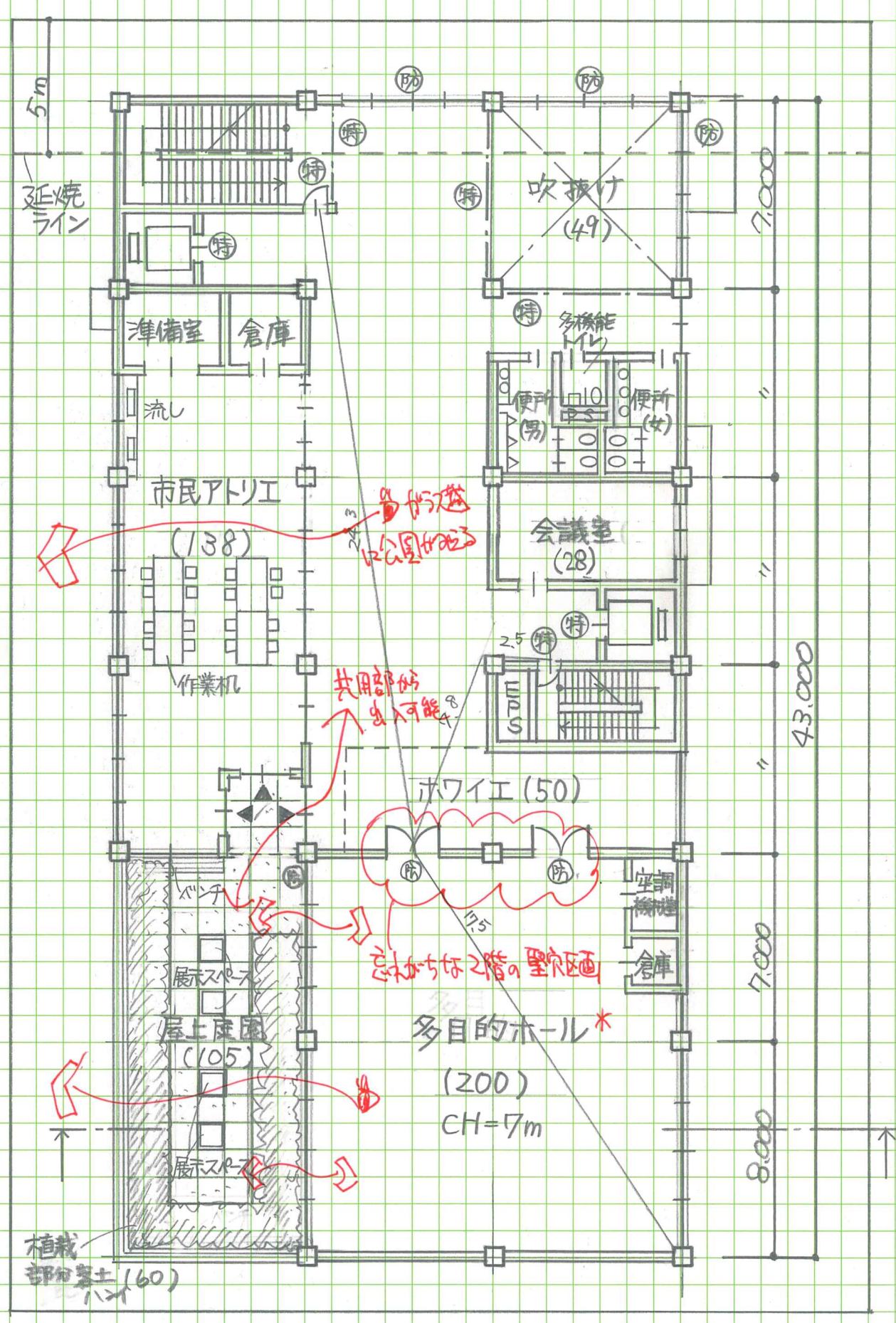


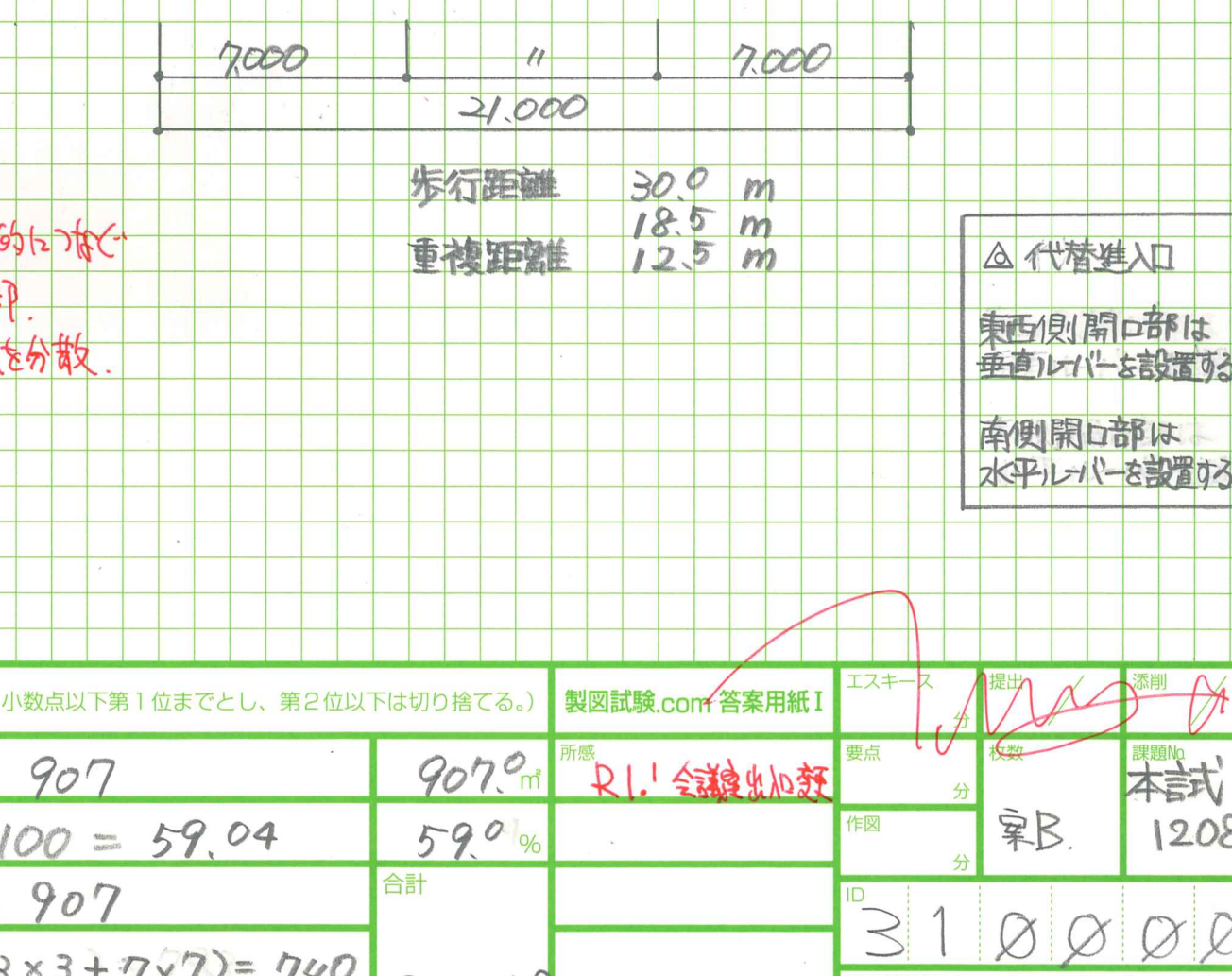
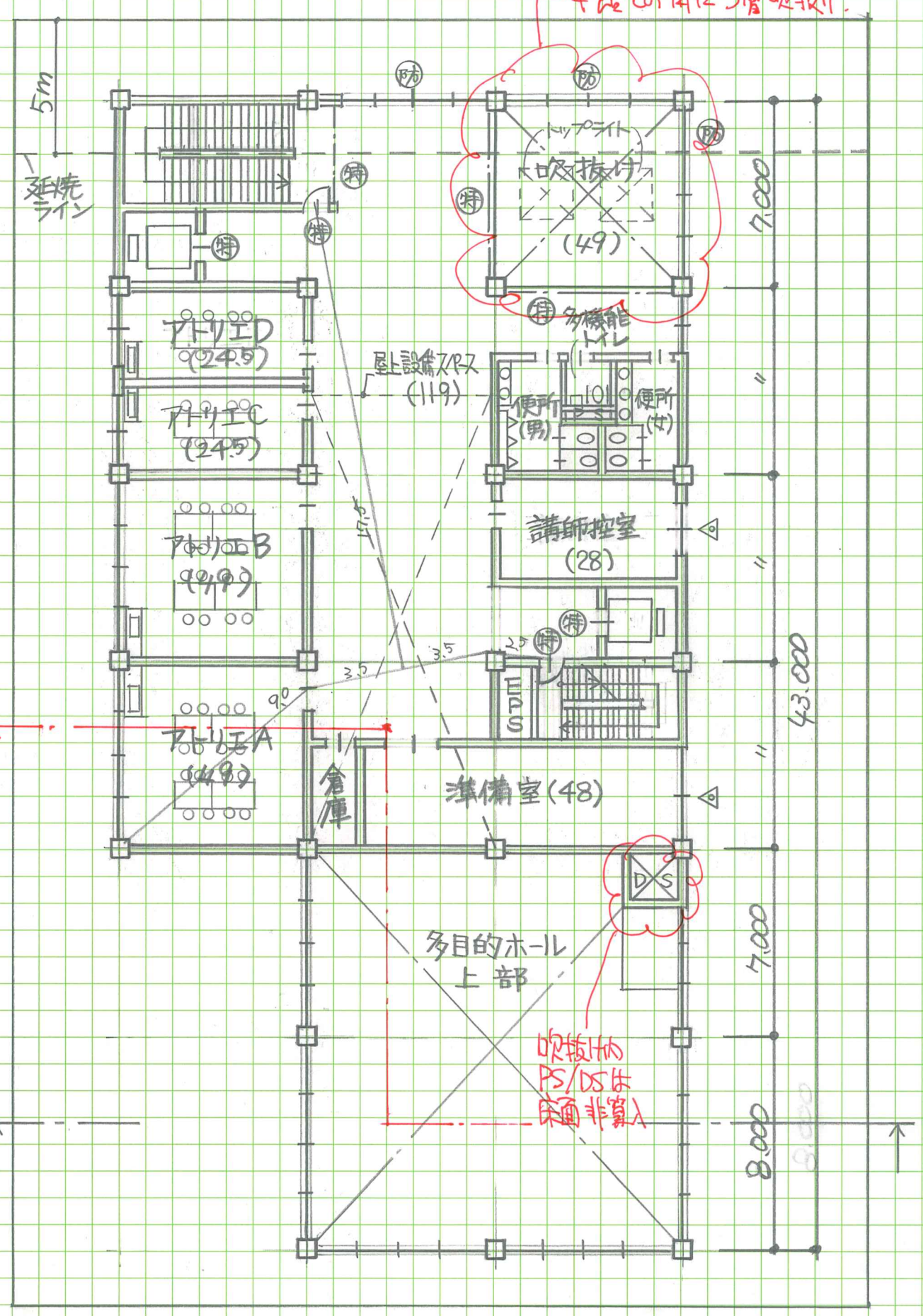
1階平面図・配置図 1/200



2階平面図 1/200



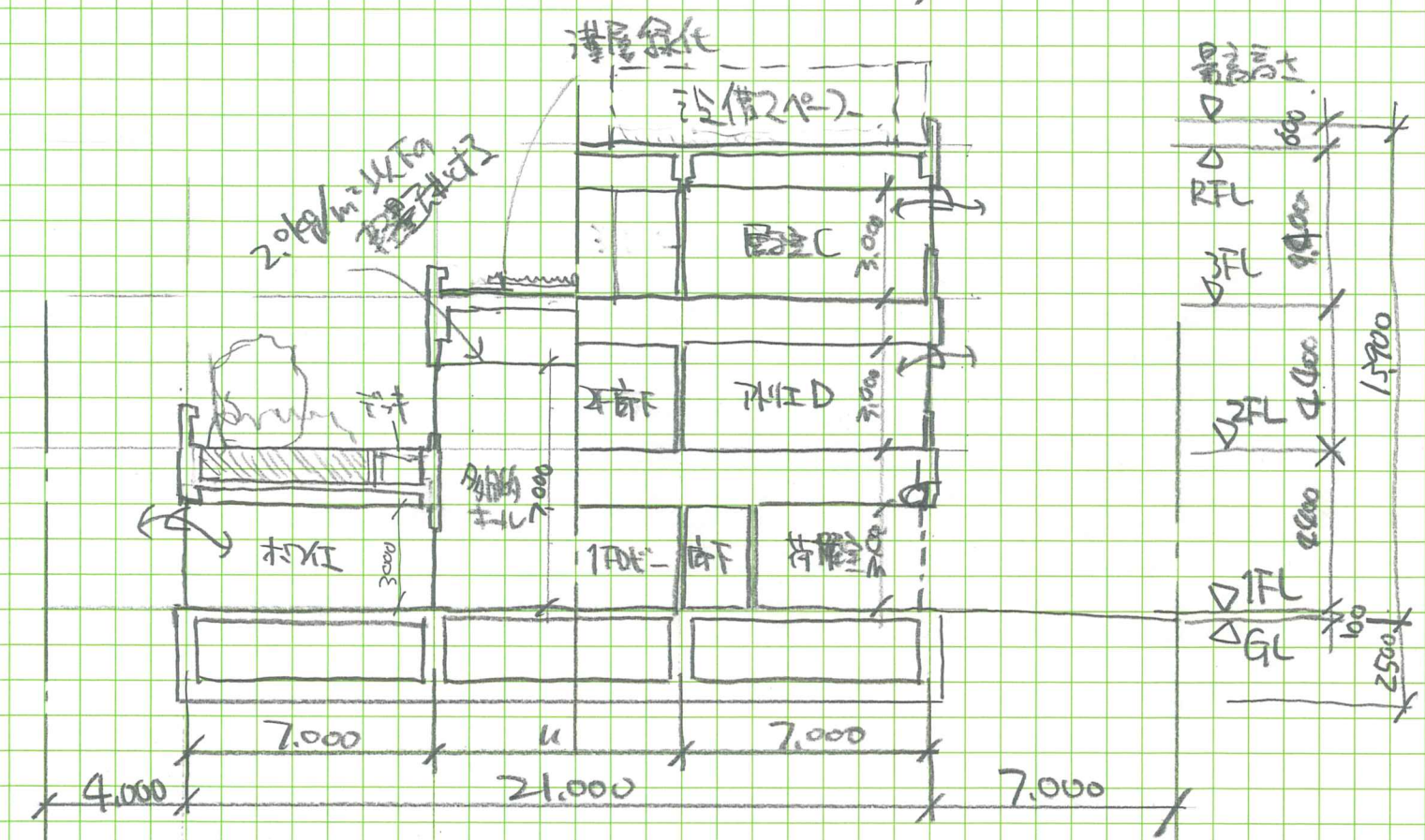
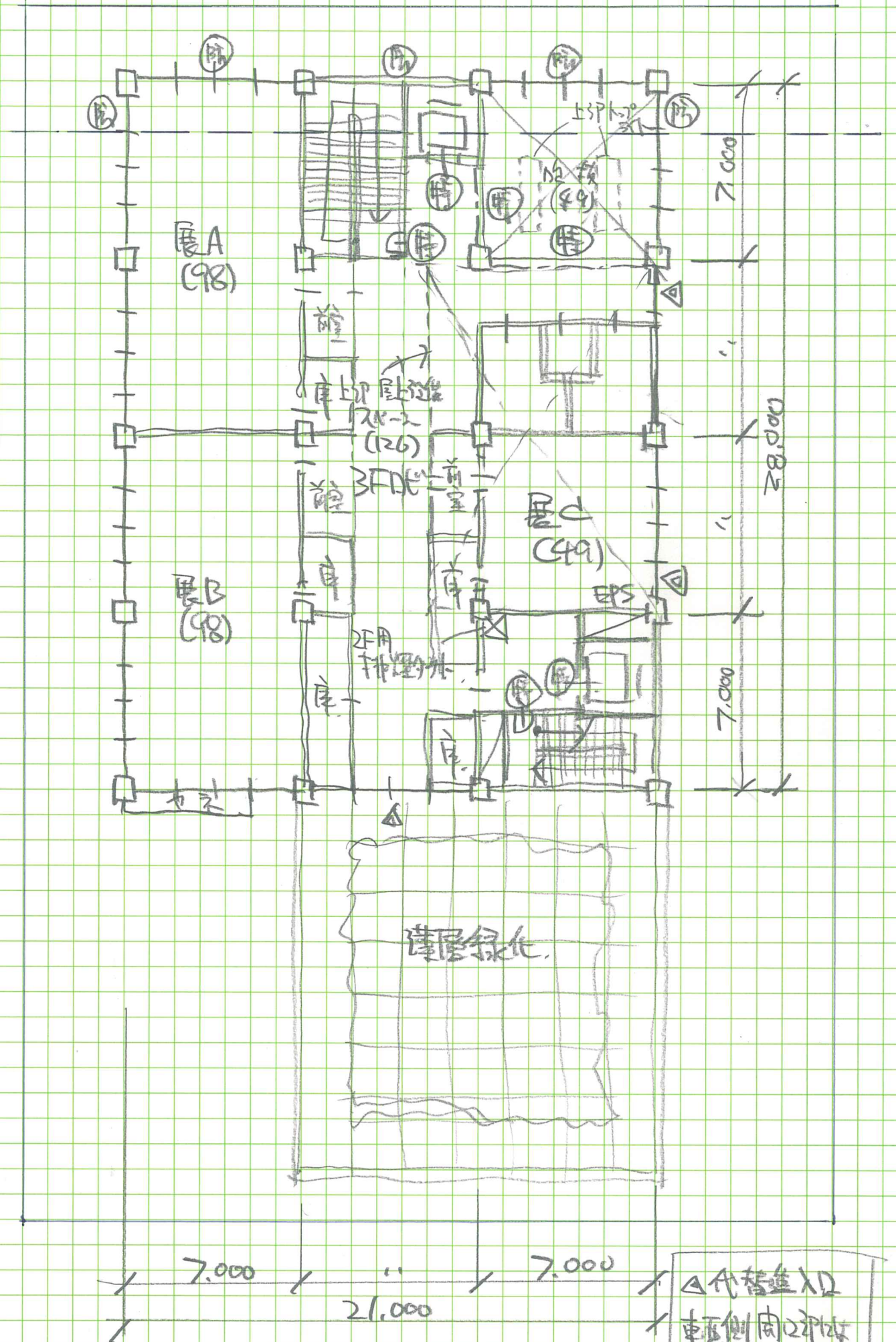
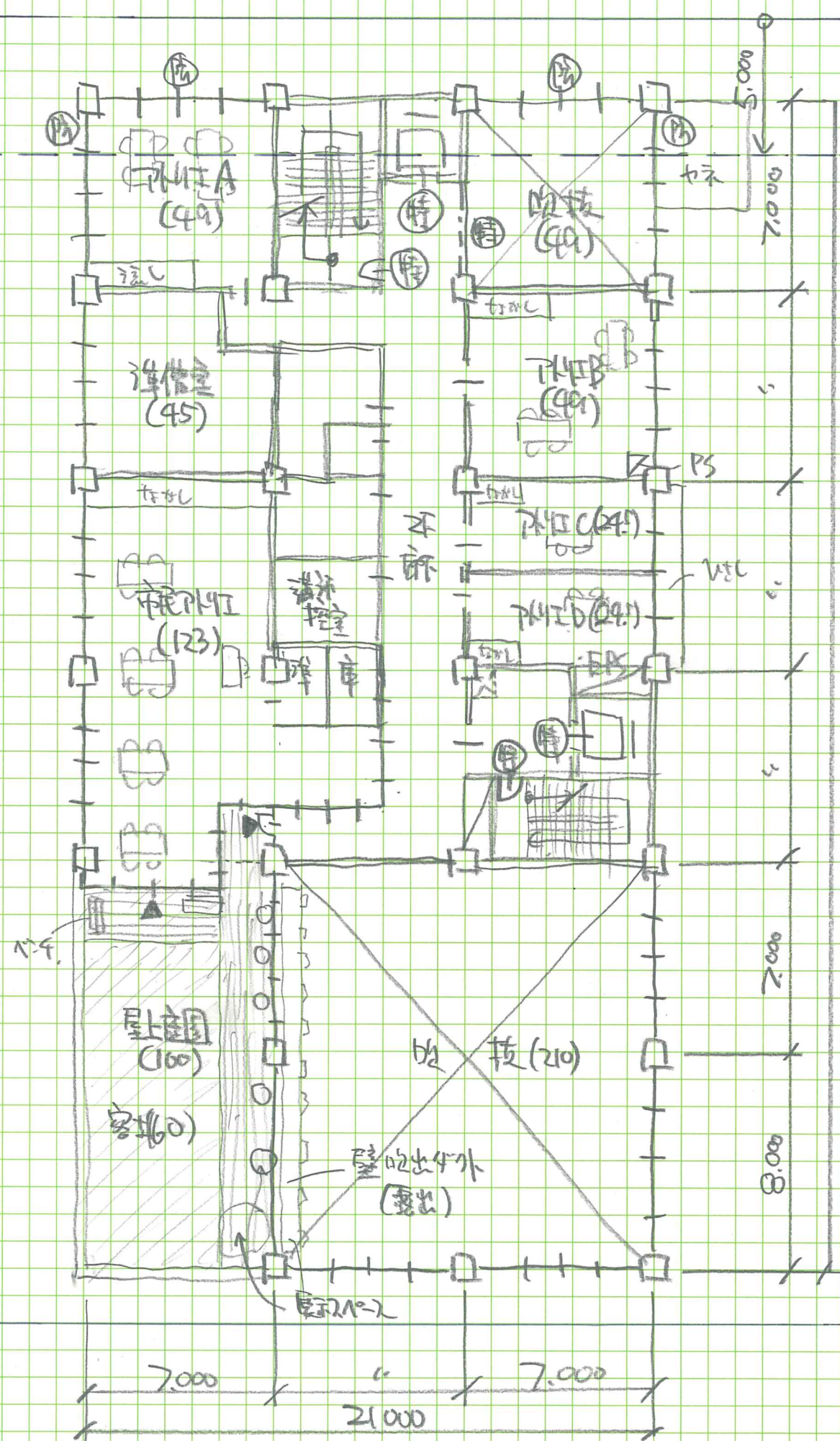
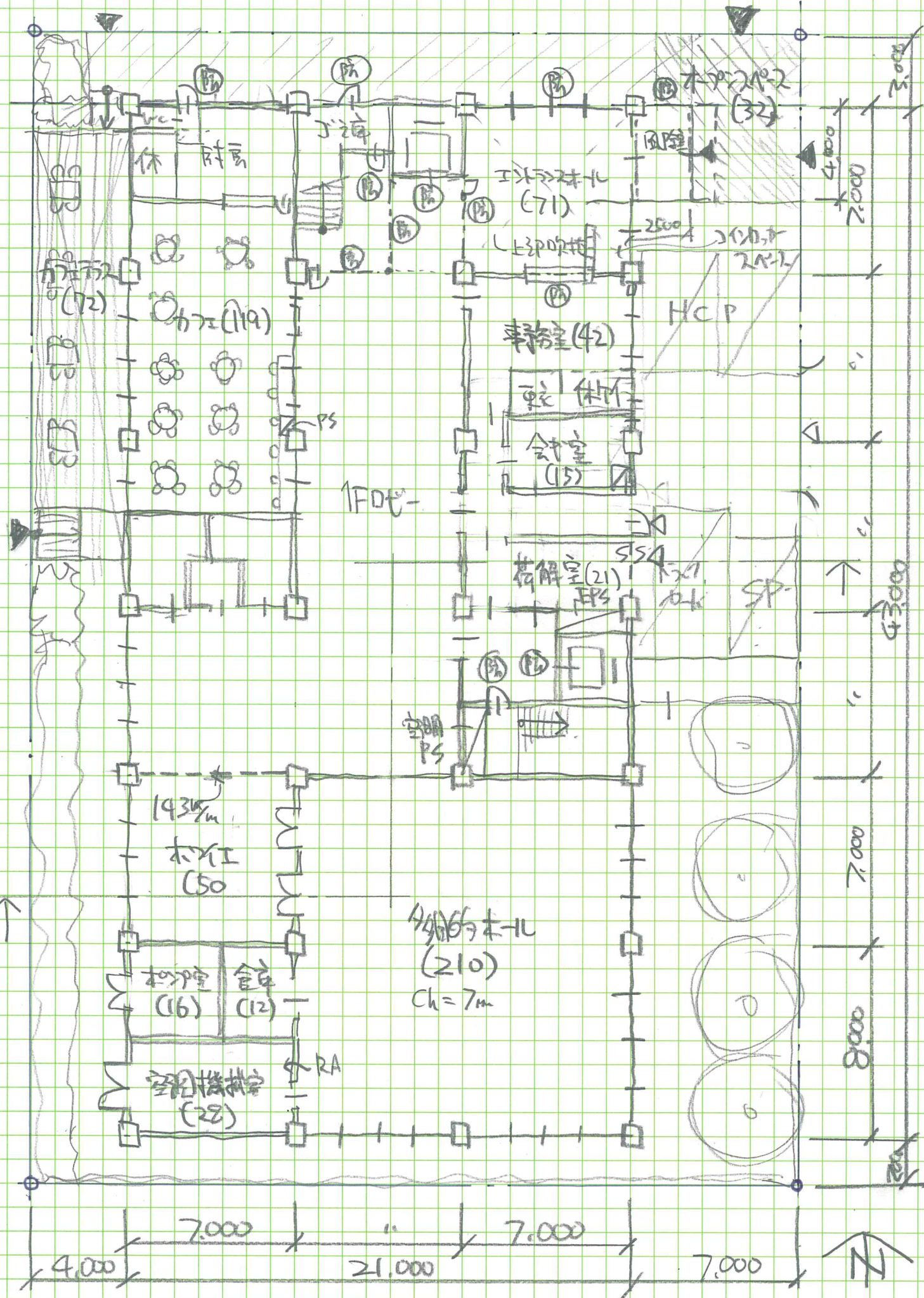
3階平面図 1/200



*多人数利用
→ ①屋上庭園と公園を視覚的につなぐ
②ゆとりとした2F共用部
③奥に配置することで出入を分散

東-西断面図 1/200

面積表（算定式は、算出過程がわかるものとする。算出結果は、小数点以下第1位までとし、第2位以下は切り捨てる。）				製図試験.com 答案用紙I		エスキース		提出		添削			
建築面積		(算定式)	$21 \times 43 + 1 \times 4 = 907$	907.0 ^m		所感 R.I. 会議室出入部		要点		校査		課題No	
建ぺい率		(算定式)	$907 / 1536 \times 100 = 59.04$	59.0 %				作図		室B.		本試 1208	
床 面 積	1 階	(算定式)	$21 \times 43 + 1 \times 4 = 907$	合計 2,186.0 ^m				ID		310000			
	2 階	(算定式)	$21 \times 43 - (7 \times 15 + 3 \times 3 + 7 \times 7) = 740$					ハンドルネーム					
	3 階	(算定式)	$21 \times 28 - 7 \times 7 = 539$					Okatsuan					



面積表 (算定式は、算出過程がわかるものとする。算出結果は、小数点以下第1位までとし、第2位以下は切り捨てる。)		製図試験.com 答案用紙I	エスキース	提出	添削
建築面積	(算定式) $21 \times 43 + 2.5 \times 4 = 913$	913.0 m ²	所感 ver.1.1 全館	分	128
建ぺい率	(算定式) $913 / 1536$	59.4 %	ver.1.2 2F面	枚数	1208
床面積	(算定式) $21 \times 43 + 2.5 \times 4 = 913$	合計	作図	分	
2階	(算定式) $21 \times 28 + 5 \times 1 - 2 \times 2 - 7 \times 7 - 2 \times 2 = 536$	1988.0 m ²	ID	31	0000
3階	(算定式) $21 \times 28 - 7 \times 7$	539 m ²	ハンドルネーム	Zone	

建築計画、構造計画及び設備計画について、次の要点等を具体的に記述する。
なお、要求図面では表せない計画についても記述する。【補足図は必ず記入すること】

(1)講演等において、多目的ホールを多くの者が利用する場合があることを踏まえて
空間構成について考慮したこと

多目的ホールは、施設のウリのひとつである屋上庭園及び市民アトリエと同じ2階に計画することで
参加型の美術館という分館イメージを最大限引き出せるよう配慮した。
ホワイエや多目的ホールからも屋上庭園が視認でき、かつ一体的に利用できるよう隣接させることで
多目的に利用できる空間構成に配慮した。

(2)外部空間と屋内空間とのつながりを踏まえて、公園カフェ及びカフェテラスの3つの関係性に
ついて考慮したこと

カフェは本施設1階中央公園側に寄せ、かつカフェテラスに出入りできるように配慮した。
またカフェテラスから公園にも出入りできるようにすることで、動線及び視覚的にカフェから
カフェテリア、そして公園につながるシークエンスに配慮した。

(3)「分館出口前のオープンスペース」について、設計条件を踏まえて工夫したこと

分館出口前にオープンスペースを設け、本館からのアプローチ及び東側道路からのアプローチを
兼ねる計画とした。その東面、北面とも柵などを設けずオープンな利用ができるように配慮した。
広さとしては50m²以上とし、分館のアプローチとして本館からの利用者も一体的に利用でき、かつ
簡単なイベント等を開くことができるような面積を確保した。

(4)「市民アトリエ」及び「ショップ」のそれぞれの「室の設え」について、特記事項を踏まえて考慮したこと

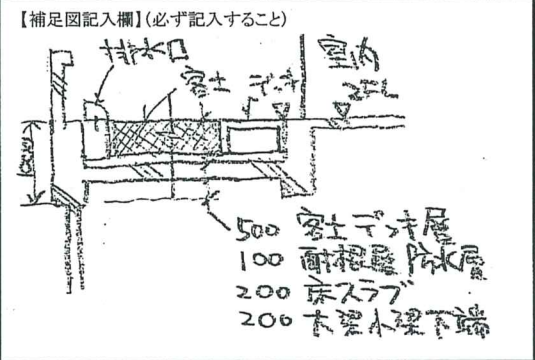
市民アトリエについては、東西面を全てガラスによる設えとし、2階ロビーから公園への透過性を高
めることで、視覚的連続性に配慮し、快適な空間となるよう考慮した。
ショップはカフェの一部として、1階ロビーからガラス越しに店内が見えるようにすると共に、照明に
ついても1階ロビーより若干明るめにすることでその見栄えに配慮した。

(5)トップライトを設けた吹抜けを、自然換気に有効利用するために工夫したこと

3層吹抜け上部に設けたトップライトは、季節のよい中間期において開放し、1階2階の共用部に高窓
を設けることで、重力換気による自然換気を可能とした。
吹抜けに面する室内側は要求室を配置せずに、できる限り開放できるよう共用部とした。

(6)屋上庭園における断面の構造等計画について考慮したこと

【補足図記入欄】(必ず記入すること)



断面構造: 客土500、耐根層防水層で100、スラブ200とした。

バリアフリー: スラブを下げることで2FLと同レベルとした。

防水: アスファルト防水の上、耐根層を設けた。

排水溝やドレインはフタがけとしメンテナンスに配慮した。

(7)設計条件を踏まえて、建築物の構造種別、架構形式、基礎形式、スパン割等を決定するにあたり、
耐震性と経済性について考慮したこと

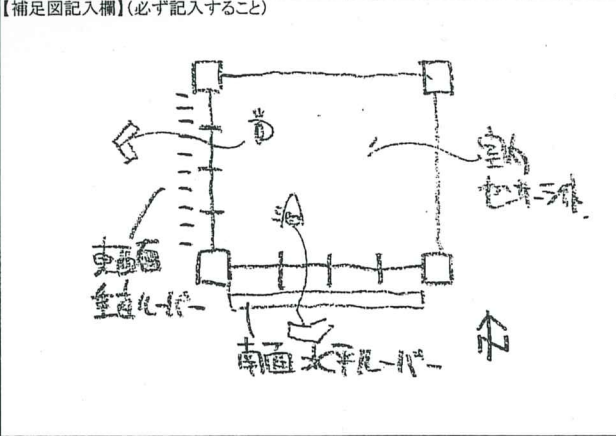
耐震性: 耐震性に配慮し、靱性に富んだ鉄筋コンクリート造のラーメン構造とした。
不同沈下を避け、かつピットにも利用できるベタ基礎を採用した。
経済性: 鉄筋コンクリート造の経済性を考え7x7及び7x8スパンとした。
ライフサイクルコストを考慮、将来の平面変更時にコストが抑えられるラーメン構造を採用した。

(8)多目的ホールの構造計画について考慮したこと及び部材の断面寸法(柱/梁/床/天井/スパン)

多目的ホールでは無柱で14mのスパンが必要となるため、経済的かつ構造としても合理的なプレストレスト コンクリート梁を用いた。また特定天井扱いにならないように天井材は2.0kg/m ² の軽量天井を採用した。			
部材の断面寸法(mm)	大梁: 500×1000 (PCG) 柱: 800×800		
	小梁: 300×500	壁: 180	床: 200

(9)公園の眺望や自然採光を確保しつつ、冷暖房時の負荷抑制を図るために、建築計画や設備計画に
おいて工夫したこと

【補足図記入欄】(必ず記入すること)

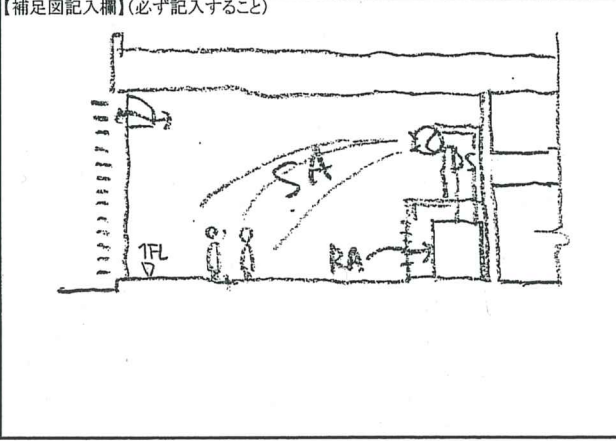


建築計画としては、南面は水平ルーバー、東西面は垂直
ルーバーを用いることで、採光、眺望に配慮しつつ、夏期
の直射日光を遮るよう配慮した。

設備計画としては、センサー式の照明器具を利用し、照度に
応じた照明を行うことで照明器具の熱負荷を最小限とした。

(10)多目的ホールの空調方式について、その方式及び冷暖房計画で考慮したこと

【補足図記入欄】(必ず記入すること)



天井高さが7mあるため、居住域を冷暖房するために、
給気口を壁吹き出しとし、コールドドラフトが起らない範囲
で居住域の温熱環境に配慮した。

また換気口を空調機械室壁面とし、ショートサーキットが起こ
らないよう配慮した。

注)フリーハンド案Aはこのタイプです。
定規での案Bは天井吹き出しタイプとしています。

※要点・図面・エスキースの裏面には念のため、氏名のみお書き添えください。

製図試験comIDのない方はIDは空欄をお願いします。受験番号とかは書かないようにしてください。